

私たちの「広」を
誰もが「ほっと」する
そんな「街」に



w a k o u k a i
NEWS

vol.53

2019
Summer

医師紹介

ふたば病院 院長
高見 浩



関わらせていただいた
全ての方々が私の礎

特集

平成30年7月豪雨から1年
「元気になるため」に、
「地域と連携した支援」を

情報局

お知らせ・イベント案内
外来担当医



「元気になるため」に、 「地域と連携した支援」を

昨年の7月に発生した西日本豪雨により、当法人のある呉市も多大な被害を受けました。「呉市川尻・安浦地域包括支援センター」については1階部分が全て水没し、流入土砂の被害を受け、人的被害はなかったものの業務再開までには時間が必要となりました。それ以外の施設に直接的な被害はありませんでしたが、交通網の寸断や渋滞、断水といった2次的な被害が見られました。

特に断水の影響による衛生悪化、空調の停止による脱水症状が予想されたため、各施設で様々な予防策が実施されました。有難い事に行政のご配慮により早くから自衛隊の方々からの給水が受けられ、利用者様への影響は最小限に防ぐことができました。

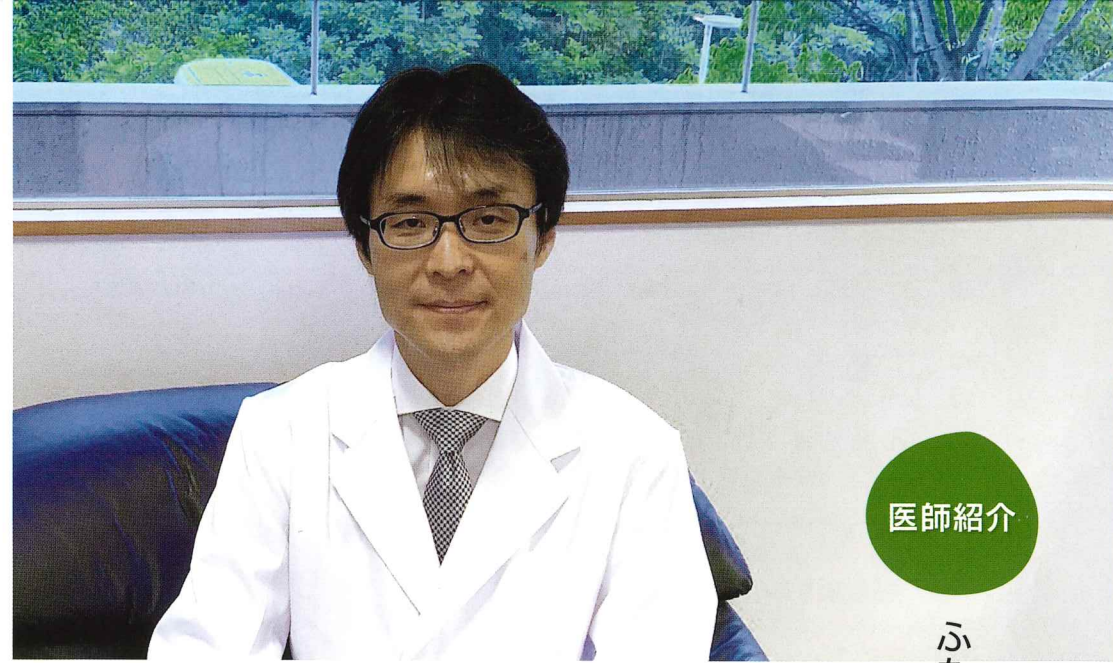
また、各種交通麻痺の影響により、送迎の遅延や休止はもちろん、職員の出勤にも影響が見られ、出勤できない職員のフォローを出勤可能な職員が行うこととなり、出勤職員の疲労の蓄積という問題も発生しました。そのような中でも職員全員が一丸となり、お互い声をかけながら励ましあっている姿があちこちで見られ、出勤困難な職員のフォローも「利用者様第一」の共通意識をもって実施できたように思います。

今回の被害は、毎年実施してきた防災訓練の想定を大きく超えたものでした。今後は、水や食料の確保、避難経路、職員の通勤経路の確保等、今回の状況を踏まえた上で、様々なケースを想定した防災訓練や災害対策講習に取り組んで参ります。

また、地域の復興のため、災害による孤独を減らすため、共助を強化するため、地域の方々が交流できる場所を提供するといった、「元気になるための支援」をしていきたいと思っております。

特に包括支援センターについては、「地域との連携」を意識した情報共有の場所をつくること、地域のニーズに応じていくこと、支援のパイプ役になることを目指していかなければならないと考えております。

一年が経った今もなお、災害の影響は無くなったわけではありません。災害から時間がたつて生じる身体的・心理的影響の可能性も考慮に入れながら利用者様並びに地域の方々と関わっていければと考えています。



医師紹介

ふたば病院 院長 高見 浩

関わらせていただいた 全ての方々が私の礎

医療の道を志した きっかけ

私はもともと医師を目指していたわけではありません。高校生のときに数学者になりたいと思いつき、学部を受験したのですが、不合格となり浪人生活を送ることになりました。それが後の人生の大きな転機となりました。

そこで色々な友人と出会い、自分が経験してきた世界とは一段と違った考え方や感じ方に触れる中で医師になることを目指すようになり、精神科を専門としたのは学生時代、精神医学の講義を受けた際に、いくら理解しようとしてもしきれない「人のこころ」の難しさや奥深さに惹かれたことが始まりです。

この判断が正しかったのかどうかは神のみぞ知るばかりでしょうが、自分としては医師となり四半世紀が過ぎ、「本当によかった」と実感しています。

患者様に寄り添う ともに歩む

利用者様が抱えていらつしやる病気に対して一緒に向き合うという気持ちで、安心して信頼していただけるよう、穏やかに接することを心がけています。

具体的なアドバイスで解決に向かうこともありますが、すぐに解決策が見つからない場合も多々あります。それでもそのような気持ちに寄り添っていくこと、その方にとってどのような治療が必要であるかを考え、より良い方法を提案する、そしてまた考えるといった日々の積み重ねが大切であると考えています。

そして病気を乗り越え、利用者の方やご家族の方々から「先生にお世話になってよかったです」という言葉をいただいたときに「医師を続けてよかったな」と本当に嬉しく思います。

「人」に恵まれた幸せ

私はこれまでいくつかの職場で働いてきましたが、いずれにおいても上司や同僚に恵まれたことは幸せでした。専門的知識はもちろん、医療者として、社会人として、人としての言動や立ち居振る舞いを色々な立場の方から教えていただきました。中でも、精神医療の道に進むきっかけを作ってくださった先生、利用者の方やご家族の方との向き合い方を教えていただいた先生、「人のこころ」をどのように理解するのかということを教えたいただいた先生方には心から感謝しています。

また、これまでの診療においてよかったこと、上手いかなかったこと全てが貴重な体験であり、これまで関わらせていただいたすべての方々が私の礎になっております。

Profile

高見 浩
(たかみ ひろし)

1967年生まれ、徳島県出身。1993年広島大学医学部卒業、国立呉病院（現：独立行政法人国立病院機構呉医療センター）、広島市精神保健福祉センター、1999年ふたば病院、広島大学病院、賀茂精神医療センターなどを経て、2009年ふたば病院副院長、2015年院長に就任。

Private

高見院長について
もっと知りたい



Q 熱中している趣味はありますか？

サッカーをやっていたこともあり、出身地のJリーグチーム「徳島ポルティス」の大ファンです。ポルティスのJ1昇格、優勝を夢見て毎年応援に励んでいます。





広報誌への ご意見・ご感想募集

「ほっと NEWS」へのご意見・ご感想を募集しています。住所、氏名、年齢、性別、ご意見・ご感想をご記入の上、下記宛先までおはがき、Eメール、またはFAXでお送りください。抽選でQuoカードをプレゼントいたします。

〈宛先〉

【ハガキ】〒737-0143
呉市広白石4丁目7番22号
医療法人社団 和恒会 広報室

【Eメール】futaba@wakokai.jp
件名に「広報誌」と入れてください。

【FAX】0823-70-0557



【対象】小学生

■工作教室

8月17日(土)

■呉市川尻・安浦地域包括支援センター
・呉高専の学生さんと一緒に夏休みの宿題を！

ボランティア
イベント



【対象】地域の方々

■ウクレレ×フラダンス鑑賞

8月24日(土)

■ふたばの街
・おなじみの曲がアロハになってやってきます！

【その他イベント情報】

■呉市川尻・安浦地域包括支援センター

はっぱカフェ

8月24日・9月28日

■パナケイア

夏祭り

8月

■ふたば病院5病棟

そうめん流し

8月

■ふたばハイツII

夏祭り

8月21日



編集後記

今回号より広報誌の内容を一新しました。表紙や内容の変化に気付かれた方も多いのではないのでしょうか？
今後もスタッフ一同、利用者の皆様に楽しんでご覧いただき

けるようなコンテンツを考えていきます。広報誌に關しましてご意見・ご感想も随時募集しておりますので上記の宛先までご連絡いただければ幸いです。
(広報室)

外来担当医表

	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
精神科 (再診)	渡邊	渡邊	今中	今中	高見 福本	福本	小鶴	小鶴	高見	今中	新宮	新宮
精神科 (初診)※1	今中		新宮		渡邊		福本 高見		小鶴			
物忘れ外来				※2				※2				
内科							広大内科	広大内科				

日曜・祝日は休診 ※1 初診は原則、午前の予約のみです。 ※2 認知症専門外来 (予約制)



医療法人社団 和恒会

〒737-0143 広島県呉市広白石4丁目7番22号

TEL 0823-70-0555

FAX 0823-70-0557

http://wakokai.jp/

和恒会

検索



ふたば病院
介護老人保健施設 パナケイア
広島県認知症疾患医療センター
居宅介護支援事業所 ふたば
訪問介護事業所ふたば
共同生活援助 ふたばの丘

地域活動支援センター ふたば
短期入所生活介護事業所 ふたばの里
高齢者複合福祉施設 ふたばの街
特定施設入居者生活介護 ふたばハイツII
呉市川尻・安浦地域包括支援センター
共同生活援助さくらんぼ